



タブレット活用でみえてくる「学び」の本質

南帷子小学校長 竹内 久美子

一人一台のタブレットが支給されました。様々な活用方法を職員で共有し、学年や学習内容に合わせて、授業で使い始めています。

初めは、恐る恐る扱っていた子やID・パスワードの入力に戸惑う子もいましたが、2回、3回と使っていくうちに、教師の指示よりも早く、使用するソフトを立ち上げる子も出てきました。タブレットを使って学習できることを楽しみにしている子どもたちが多くいます。

今の教科書には、ところどころ QR コードが付いています。これをタブレットで読み取ると、学習内容に関係ある資料を写真や動画で見ることができます。理科で顕微鏡の使い方を詳しく見たり、音楽で民謡について調べたりすることもできます。英語では、音声を真似して発音練習をすることもできます。

体育の授業では、マット運動や走り高跳びの様子をお互いに動画で撮影し、もっと上手になるために、どこをどのように改善したらよいか、仲間にアドバイスしていました。自分の様子を視覚的に確認できるため、仲間のアドバイスも納得でき、変容ぶりもよく分かります。

図工では、仲間の作品をカメラ機能で撮影し、そこに、自分が感じた作品の良さを文章で書き込んだ「発表ノート」を担当にデータで提出するという活用もしています。鑑賞の足跡が残ります。

算数の練習問題をタブレットで取り組むこともできます。自分のペースで学習することができ、答えが正しいかどうかすぐ分かるため、間違いにも早く気付きます。正答のときは、「次の問題も頑張ろう！」という意欲につながります。

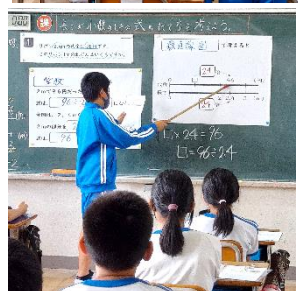
7月には、各教室にプロジェクターを付けていただく予定ですので、さらに、ICT 機器活用の幅が広がりそうです。

しかし、もし、子どもたちが、「タブレットが使えるから楽しい！」というレベルの興味関心だけで学びに向かっているとしたら、その好奇心は、すぐに冷めてしまい、タブレットで調べることも、問題に取り組むことも、動画を撮ることも、「つまらない」と感じるようになるでしょう。タブレットは、ただの道具ですから…。前述した、タブレットで算数の問題に取り組んでいた子どもたちの様子を見ると、分からない時は、ノートを見直して解き方を調べる姿、正しい答えを出すようにノートで丁寧に筆算をする姿がありました。別の時間には、小数のわり算の問題について、なぜ、その式になるのか、懸命に説明している姿、「ああ、そうかあ。」と納得している姿がありました。大切なのは、タブレットではなく、学習そのものへの興味関心をもち、確実に知識・技能を身に付け、自分の考えをつくり表出する思考力や表現力を高めることです。だから、担任は、日々の授業を大切にして、「習った漢字を使って丁寧に書きましょう。」「先生の話や仲間の話をよく聞きましょう。」「同じ考えでも、自分の言葉で発表しましょう。」「宿題や自主勉強で復習し、基本の力をつけましょう。」と指導するわけです。

今後、私たちは、さらに ICT 機器の効果的な活用方法を追求するとともに、子どもたち自身が、「知りたい、分かってほしい、できるようになりたい。」と自分のために学ぼうとする授業ができるよう研鑽していきます。



タブレットを使って学習する子どもたち



なぜ、その式になるかペアや全体で説明している子どもたち